

分別した資源ごみ こうやってリサイクルされています!!

アルミ缶・スチール缶編

分けることからリサイクルは始まる!

アルミ缶やスチール缶も、前回のペットボトルと同じように、材質が均一であるため、マテリアルリサイクル(溶かして新しく缶を作る方法)が進められている品目のひとつです。リサイクル率はアルミ缶で約90%、スチール缶で約85%です。

生まれ変わるまで アルミ缶とスチール缶は、同じ方法でリサイクルされます。



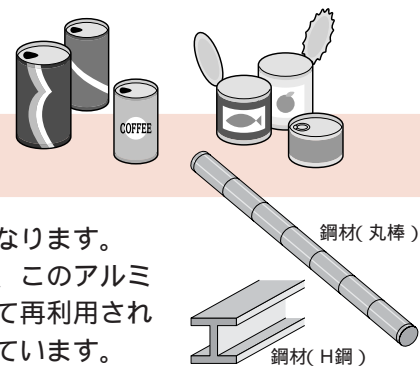
CAN TO CAN = 空き缶から新しく缶をつくること

アルミ缶

回収されたアルミ缶のうち60%以上が再び缶に生まれ変わります。
アルミ缶を原材料から作る時と比べ、CAN TO CANで作るときでは、約3%のエネルギーで新しい缶を作ることができます。

スチール缶

スチール缶を原材料から作る時と比べ、CAN TO CANで作るときでは、約35%のエネルギーで新しい缶を作ることができます。



鉄製品・アルミ製品

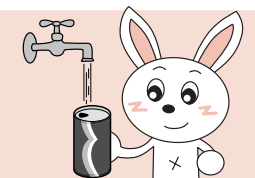
自動車、家電製品、鉄道などの部品や建築資材などの製品になります。
また、飲料用スチール缶のフタはアルミ製がほとんどですが、このアルミは、溶かした時に分離され、アスファルト用骨材や路盤材として再利用されたり、品質の良い鉄を作るための脱酸剤として利用されたりしています。

大切な資源です!

アルミ缶やスチール缶は、私たちの生活になくてはならない便利なものです。リサイクルすれば資源になります。地球のためにも私たち自身のためにも上手に付き合っていきたいですね。

ルールを守って正しく出しましょう

- ・必ず水洗いしてから出してください。
- ・アルミ缶とスチール缶に分けて出してください。
- ・飲食物以外のものが入っていた缶(油の入っていた缶も含む)は、「もえないごみ(金物類)」に出してください。

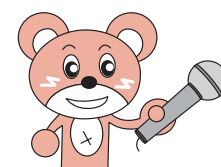


きちんと出さないと災害につながります

スプレー缶やガスボンベなどは、穴を開けてガスを抜いてから「もえないごみ(金物類)」に出してください。



現場の声



金物や、ピンなどが入っていることがあります。また、缶の中にたばこや飲み残しが入っていることもあり、作業のとき困ります。出すときは、きちんと洗って出してほしいですね。



ミニ知識

アルミ缶

アルミ缶の歴史は、文化8年(1812)、今から197年前イギリスでブリキ製ハンダ缶の商業生産が開始されたことから始まります。昭和46年には日本初のアルミ製ビール缶が実用化されました。

平成3年、リサイクルのため、缶材の識別表示マークが義務付けられました。(スチール缶も同様)

3つの特徴

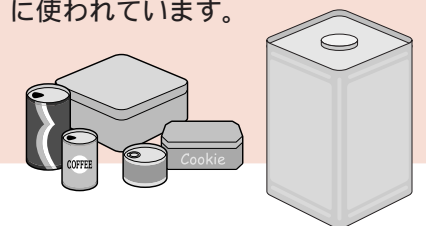
- ①軽い.....アルミニウムは鉄の3分の1
- ②さびにくい.....いつまでも衛生的
- ③熱をよく伝える.....温めやすく、冷やしやす

スチール缶

スチール缶の歴史も古く、文化元年(1804)、今から205年前フランス人によって発明されました。明治4年(1871)にはフランス人から缶詰の製造法を伝授され、日本(長崎)で初製造。昭和33年にビール、34年にトマトジュース、35年には炭酸飲料が発売されました。

いろいろなものに使われています

缶コーヒーなどの飲料缶、みかんや魚の缶詰などの食料缶、のり・お茶・クッキーなどの一般缶、食品用や塗料・石油などの18リットル缶(一斗缶)に使われています。



訂正とお詫び

リンク9月号6ページ「分別した資源ごみ...ペットボトル編 再資源化されるまで①工作などで加工したペットボトル」で誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤「プラスチックごみ」 正「もえるごみ」
工作などで加工したペットボトルは「もえるごみ」です。

問北勢庁舎 生活環境課 T 72-3946 F 72-3748